



「我々は、みな、自称、善人で生きている」。そう言い切るのは、英文学者本田顕彰(あきら)氏である。彼は「私の理性を満足させないものは何一つ信ずることができない」という徹底さを持って生きた人であるが、その彼が自己の信仰体験を通し、『教行信証』、『歎異抄』に真実の救いを見出していった人である。

そんな彼の著書『歎異抄入門』光文社は、「入門」とあるがごとく、より具体的で、論理性が重んじられていて、とても理解しやすいものである。そして何よりも「自己の信仰体験」が織り込み述べられていることに、強い説得力を感じとることができた。

「罪悪深重」の己の深い自覚が、自力の心を捨てさせ、「悪人正機」(善人でさえ救われるのに、どうして悪人が救われないことがあるのか)という仏の慈悲心に救われていく確信が持てた人だと思われた。私たちは自分を「善人」だと思って生きてはいるが、はたして本当にそうなのだろうか。はたして、あの親鸞聖人の煩惱を捨てきれない悪人としての自覚は、どう受け止められたらよいのだろうか。今生においての往生(平生業成)への、私自身への問いを、今、生きる出発点としなければ、まさに人生を空過してしまうことになるだろう。

……親鸞聖人は2回結婚された……

玉口姫と恵信尼 その2 六角堂の夢告

二十六才のとき、先回のように赤山明神 せきざんみよつじん)で不思議な出会いを経験しますが、その際、干日ののち、「このことだったのかと思ひあたることがありましょ」と予言されます。干日後というのは、六角堂参籠の時期にあたります。親鸞聖人は二十九才の春、真実の生き方を求めて、百日を期して六角堂に参籠しますが、九十五日目のあかつき、救世観音が夢枕にたち、次の偈をさすけます。

行者ぎよつじや宿報 むゆへほつこによりて

たとえ女犯(じよぼん)すといへども

われは玉女(たまむすめ)ぎよつじよの身となりて犯されん

一生のあいだよく莊嚴(じやうげん)ひよつじや

臨終(りんじゆう)引導(いんどう)ひんごうして極楽(ごくらく)に生ぜしめん

☆善信(ぜんしん)この文の意を、一切群生(いっせつぐんせい)に説き聴かずべし



六角堂



久世観音

これは「第二の夢告」とよばれるもので、この夢告がきっかけになって吉水におもむき、法然上人の教えをつけるようになります。女人救済、結婚の問題は、本人としても人生上の大きな課題でありましたが、同時に、社会的にも長く続いた仏教の戒律を破ると言う重大な問題でもありました。この思想上の課題は、女人救済にとどまらず、その後さらに広がりを見せ、五逆罪の人も、法を謗る人もすべて救われるとして教行信証が書かれますが、晩年は一切の人が救われるという、絶対他力の高い境地につながっていききました。今回は「玉口との婚儀」をご紹介します。

秋季永代経

九月二十三日(水)

お斎あります。

午前 S・J

午後

≡重 賀宝寺住職
 予定ー若院 若坊守

霊性的直覚

才市さんの言葉には力を感じます。それは日常生活を通して、自然に沸き起すような思いや考えをそのままに、何の虚飾、偽りのかぶりも加えたりしない、述べらるるからだと思います。

しかもこの思いや考えには、どこか霊的なものを感じさせます。人間の分別を超えた世界からの働きかけを、まさに身体全体で感じ取り、言葉として噴出させているように思えるのです。

(息)

○なむあみだばわ、みだのいき、わたしや、あなたのいきとらわん、なむあみだつ。

自分の呼吸がそのまま弥陀の呼吸だという。彼自身の心の動きがそのまま出てくるのである。

浄土)

○なむあみだばわ、上をむかひ、わつらうに流れていけい

(動へ)

□のこころを、仏恩報謝。

○きこたう思ひじやない、

な(い)

きこたう思ひじやない、

いじにあたるなむあみだばわ。



きちんと生きました。

歌いこん

(聞いた)といえは、それは自力の意志を示唆します。才市さんの経験では、なむあみだば「が、向うからきて、こちらに、あたるといふのです。自らの意志であつたのではなく、この意志がなくなつて始めて向うから来たこと、この間の微妙な感覚は、その人でない限り、分からないことなのだと思われませんが、あたるといふ感覚は、才市さん独特の他力そのものを感じたことの表現方法なのでしょう。

参考文献 鈴木大拙 妙好人 法蔵館

彼の使う言葉には、ほとんど教説が出てきません。

他力、自力、仏恩報謝、機法一体べらうの言葉だと思いますが、彼の使う言葉からは、真宗を、包括的に、しかも核心をついた言葉として、みごとくに言い当られているように感じられるのです。

力強く、確かな信心に生きるよろこびが、なむあみだぶつにあふれ出て、その声のかすかな響きが、読むものにも聞こえてくるような、そんな錯覚にさえ陥らされます。

お経を習いましょう

墨俣町仏教会主催
7月25日(土) 廣専寺
子供大会開催



毎年墨俣地区の子供たちを中心に、お経を習う行事を実施しています。
今年は二十数名の子供たちが出席してくれました。幼稚園児から小学校児童が中心ですが、付添いのお母さん、おばあちゃんまで、帰命無量と大きな声で唱和していました。
練習の後には、かき氷や紙芝居があつて楽しめました。紙芝居は若坊守がやってくれました。
仏の子といふ見守りていきたいものです。

八月の学習会はお休みです。

9月12日(土)より再開します。

「おあさじ」は7時半よりございます。子供さん同伴でどうぞ！

お位牌等燃える小物は、お盆前後に寺にて焼却いたします。

古いお位牌などは、御軸に移しかえ、お仏壇の中のお荘厳を正しく整理、整頓されてはいかがでしょうか。

詳しいことは住職、寺へお知らせください。

0584-62-5722

携帯